

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成26年11月27日(2014.11.27)

【公表番号】特表2013-544415(P2013-544415A)
 【公表日】平成25年12月12日(2013.12.12)
 【年通号数】公開・登録公報2013-067
 【出願番号】特願2013-542009(P2013-542009)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

G 0 6 F 3/0488 (2013.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/041 3 8 0 M

G 0 6 F 3/048 6 2 0

【手続補正書】
 【提出日】平成26年10月6日(2014.10.6)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

コンピューティングデバイスに対するユーザー入力を前記コンピューティングデバイスにおいて解釈するための方法であって、

前記コンピューティングデバイスにおいて、前記コンピューティングデバイスに通信可能に結合されたユーザーインターフェースを介してユーザーによって提供される動くユーザー入力を受け取るステップであって、前記動くユーザー入力は、元のポイントから始まっている、ステップと、

前記ユーザー入力の前記元のポイントから自由形式の動き閾値距離の範囲内に留まっている間、前記ユーザー入力を受け取られたとおり、変更されない形態で、前記動くユーザー入力を、前記コンピューティングデバイス上で実行するプロセスに送るステップと、

前記元のポイントから前記自由形式の動き閾値距離を超えて、かつ溝領域に入るように、前記動くユーザー入力が動いたことに応答して、変更されたユーザー入力を前記コンピューティングデバイス上で実行する前記プロセスに送るステップであって、前記変更されたユーザー入力は、前記溝領域に沿って前記動くユーザー入力を中心に位置付けるように変更される、ステップと

を含む方法。

【請求項 2】

前記変更されたユーザー入力を前記送るステップの後、前記動くユーザー入力が溝エスケープ閾値境界を超えて前記溝領域に対して直角に移動したことに応答して、前記動くユーザー入力を前記変更されない形態で、前記コンピューティングデバイス上で実行する前記プロセスに再び送るステップをさらに含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記動くユーザー入力の前記溝エスケープ閾値境界を超えて動いたポイントから第 2 の自由形式の動き閾値距離を超えて、かつ第 2 の溝領域に入るように、前記動くユーザー入力が動いたことに応答して、再び変更されたユーザー入力を、前記コンピューティングデバイス上で実行する前記プロセスに送るステップであって、前記再び変更されたユーザー入力は、前記第 2 の溝領域に沿って前記動くユーザー入力を中心に位置付けるように変更

される、ステップをさらに含む請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記溝領域は、前記元のポイントに揃えて位置付けられた所定の直線的な領域である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記動くユーザー入力が或る方向に実質的に沿った向きであると判定するステップと、コンピューター実行可能命令が、前記動くユーザー入力が前記方向に実質的に沿った向きであると判定すると、前記溝領域を、前記向きに揃えられ、かつ前記動くユーザー入力の位置に配置された直線的な領域として確立するステップとをさらに含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記ユーザーによって終えられるより前に、前記動くユーザー入力がアクティブ化閾値を超えないことに応答して、前記元のポイントにおけるアクティブ化イベントを、前記コンピューティングデバイス上で実行する前記プロセスに送るステップをさらに含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記ユーザーによって終えられるより前に、前記動くユーザー入力がアクティブ化閾値を超えないことに応答して、送られた前記動くユーザー入力を元に戻すユーザー入力を、前記コンピューティングデバイス上で生成するステップをさらに含む請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記変更されたユーザー入力を前記コンピューティングデバイス上で実行する前記プロセスに送るステップは、前記動くユーザー入力が前記元のポイントから前記自由形式の動き閾値距離を超えて動いた場合、および前記動くユーザー入力が前記溝領域に入るように動いた場合であって、前記動くユーザー入力の直近の先行する複数の位置が、前記溝領域の方向に実質的に沿っている場合に限って、実行される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

ユーザー入力周辺装置と、1つまたは複数の処理装置と、コンピューター実行可能命令を含む1つまたは複数のコンピューター可読媒体とを備えるコンピューティングデバイスであって、前記コンピューター実行可能命令は、前記1つまたは複数の処理装置によって実行されると、

前記ユーザー入力周辺装置から、動くユーザー入力を受け取るステップであって、前記動くユーザー入力は、元のポイントから始まっている、受け取るステップと、

前記ユーザー入力が、前記元のポイントから自由形式の動き閾値距離の範囲内に留まっている間、前記ユーザー入力周辺装置から前記動くユーザー入力が受け取られたとおり、変更されない形態で前記動くユーザー入力を送るステップと、

前記元のポイントから前記自由形式の動き閾値距離を超えて、かつ溝領域に入るように、前記動くユーザー入力が動いたことに応答して、変更されたユーザー入力を送るステップであって、前記変更されたユーザー入力は、前記溝領域に沿って前記動くユーザー入力を中心に位置付けるように変更される、送るステップと
を実行する、
コンピューティングデバイス。